

福住にほこれる川をめざして

天理市立福住中学校 一年

岡本 芽依

私の住んでいる福住町には、深江川という川が流れています。その川は、小学校の校歌に、「深江の流れよどみなく深江川の流れはにごることなく」と歌われています。この福住を代表する清い流れの川といってもいいかもしれません。私も（深江川ってすごいきれいなんだなあ、だって福住は空気もおいしいし、緑も多いから。）とと思ってました。

しかし、その期待を裏切るような出来事が起きてしまいました。

小学四年生の総合の時間に、私たちは川の水質検査をすることになりました。

「川、入るの楽しみやなあ。」

「今日暑いから早く行きたいわー。」

と口々に言いながら水質検査を楽しみに行きました。そして、生き物もとりました。生き物をとったら、私の気持ちも一気に上がりま

した。

「よし、じゃあ水質検査すんでー。」

と担任の先生が言った時、（私も見たい！）

と思いついて先生の手元を見ました。水質検査は、専用のスポイトに検査したい水を入れ、時間がたつと色がでます。その色をきかない水からきれいな水がどの色かということに分かる紙と比べるのです。私はずっとそのスポイトを見ていました。するとだんだん、だんだん色が変わっていききました。

「じゃあ比べよか。」

と先生が言われたので、急いで紙とスポイトを比べました。すると、先生が、

「んー。少し、きたない水かな。」

と先生がおっしゃいました。（えっこの水、少しかたないの？）私の思ってたことと違ったのでショックだったのですが、それ以上に

(何でこうなったんだろう。) という疑問が生まれました。

それから一年過ぎた、五年生の時です。五年生では川のごみを拾いました。(四年生の時は少しきたない水やったから、ごみもあるだろう。)と考えていました。ごみ拾いが始まりました。さっそく、ビニールが見つかりました。それに続きガラスのかけらが見つかりたりもしました。(まあ、ビニールとガラスぐらいはあるよね。)と思つてごみを探しました。ごみ拾いを開始してから何十分かたつた得、バシヤバシヤと水音がして、

「こんなんあつたでー。」
と友達がこつちに向かつてきました。目をやる時、

「えっ!!何でこんなんあんの!?!」
なんと、乾電池とホースでした。友達の拾った物がすごく意外な物で(何で深江川に?)とまた疑問が生まれました。(乾電池は小さいから捨てても分らないと思つたのかもしないけれど、ホース、大きくて目立つ物なのに。よく堂々と捨てられるな。)と思ひました。

この福住中学校の校歌にも、「深江の流れいやすみまさる深江の流れは、ますますみわたる」という言葉が入っています。しかし、残念ながらこれは過去のことで、今は違つてきています。(これくらい捨てていいか。)という人たちの心が積み重なつて、深江川をよごしていったと私は思います。では、私たちはどうすればいいでしょうか。川にごみを捨てず、ごみは持ち帰る。川に生活排水を流さない。河原に捨てられているごみは拾う。いろいろ考えられるので、工夫しながら、川の改善ができたらいと考えています。私一人では何も変わりません。みなさん一人一人が心がけをしてもらいたいです。そして、深江川が小学校中学校の校歌のようにきれいな川、ここ福住の誇れる川となつてほしいと思つています。私も誇りをもって校歌を歌えるように、川を守るための行動を始めたいと思います。